

北海道文教大学 後援会 No. 6

CONTENTS

後援会活動報告	1
理事長・学長挨拶	2
就職課便り	3
平成21年度決算	4
平成22年度予算・事業計画	4
第12回北海道文教大学榮凜祭	4

平成22年9月15日(水)

発行責任者 伊藤誉志久
発行係 北海道文教大学事務局学務部教務生課内
北海道文教大学後援会 TEL 0123-34-0011

「平成22年度の 後援会活動などについて」

北海道文教大学後援会会長

伊藤 誉志久



会員の皆様には日頃から後援会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

ご承知のように、北海道文教大学後援会は、文教大学並びに短期大学の建学の精神に則り、会員の皆様方相互のご協力によって、大学と短期大学の後援し、その発展充実に寄与することを目的として、会員の皆様から御預かりした会費収入により、様々な事業を展開しているところであります。

この会報は後援会事業の報告などを通じて会員の皆様に後援会に対するご理解を深めていただくことにも、もつと関心を持っていただくことを目的として、平成19年度から開始し、今回で第6号となります。

本号では、皆さんには是非お知らせしたい事柄や今年度予算・総会の様子などについてご報告をさせていただきます。

1 学位記授与式の出来事

会員の皆様には既に承知のように、平成22年度から大学にも「学位記授与式」が設けられ、これに伴い札幌キャンパス(短期大学部)が来年3月の卒業生をもって閉校となります。多分、そんな背景があるからかと思いますが、この3月の学位記授与式において大変感動する場面に出会いました。それは、式次第にある大学及び短期大学の学歌斉唱の際、大学の分が終わる、短期大学の学歌となつた時、短期大学部卒業生全員が立ち上がり大きな声で学歌を歌つたのです。大学の卒業生はそんなことはしていませんからびっくりした様子で、私自身も式典出席が3回目でしたが、このようなことは初めてのことであります。

自分たちが卒業した短期大学部がもう後1年でなくなるという想いがこのような行動になったのかと思うと同時に、こんな心優しい若者たちが遠い将来を担っていくことと触れ合い、その教育の一端を担う世界に生きていくことをとても嬉しく思いました。

このことは去る7月に開催された「札幌キャンパス父母懇談会」(短期大学部在学対象)の際にお話させていただきました。父母の方々は卒業に向けて、是非、お子さんの背中を強く押していたら、と、更に、更には万難を排して学位記授与式に出席をし、彼らが歌う学歌を聞いていただきたいとお願いしたところでした。

来年のことを言えば鬼が笑うと言いますが、私は勝手に思っています。

来年の最後の卒業生もきつと先輩を見習って同じことをしてくれるに違いないと、そして、出来れば大学の卒業生も立ち上がって歌ってほしいかなと。

2 平成22年度後援会総会について
今年度の総会は、入学式当日の4月3日に開催されました。会長である私から、昨年度の決算報告や今年度の事業計画等について説明させていただきましたと同時に、後援会の現状について説明し役員への就任をお願いしました。

その後質疑等を受けましたが、事業計画などへの賛意と期待が寄せられたほか、1点ですが以下のような質問がありました。○後援会と大学の先生方との関係及び職員との関係はどのようになっているのか、また、今後、どのような関係を構築しよう

と考えているのか教えて欲しい。

今後のことになると思うが、会則にある大学を後援するという観点では、例えば、先生方の留学への支援等も考えていかなければならぬと思っております。

また、後援会の諸事務については基本的に大学の学生課長さんをお願いし、大変お世話になっており、必要な打ち合わせなどについては電話やメールでその都度対応するなどして、また、出席された会員の方から後援会役員に就任しても良いという積極的なお話もいただきました。

なお、総会の開催状況については第1回役員会において報告しております。

3 平成22年度後援会事業のポイント

今年度の事業予算は別掲のとおりですが、そのポイントを説明したいと思います。

(1) 学生の自主的活動の促進を図る観点から、「課外活動助成」に関する取扱内規の緩和を行うとともに、学生に対する広報に努めることを基本とし、「文化・体育助成」費を増額することと致しました。

(2) 昨今の状況等を踏まえ、就職試験対策講座の強化等を図ることとし、「就職活動助成」費を増額することと致しました。

(3) 学生指導助成費は、大学からの要請に応じて、事業の意義に着目して予算化したものですが、執行率は思いの外低い状況にあります。しかしながら、事業効果は高いものとの観点から、その完全実施を促すことによる効果発揮と教員の持ち出し分の低減を図るため増額することと致しました。

(4) 昨年度に引き続き、「後援会活動調整基金」に積み立てすることと致しました。当該基金は、計画内において、周知の各種要請等を踏まえ、現行事業の拡充強化、或いは、その逆)や予備費充当の必要性等を協議する予定としております。

4 平成22年度キャンパスウォッチング推進
去る7月16日(金)に役員会メンバーによる「キャンパスウォッチング」を実施致しました。

「キャンパスウォッチング」は、学内において学生さんが通常取る行動などを観察することによって、後援会が実施した事業がどのように評価されているのか、また、どんなことに不満を持っているのかなどを理解し、今後の後援会事業に活かすことを目的として実施しております。

このため、当然ですが講義のある平日に実施しなければなりませんので、残念ながらお仕事の都合などから当日の参加者は6名でした。

さて、昼休みの状況を観察して分かったことは、
・幾人かの学生に聞いてみたが、カフェテリアで提供されているメニューや味の評判は良く、去年に比べたらとても良いという感想であった。
・また、相当混んでいるのかと思っていたが、スペースによりは決して満席の状況ではないように見えた。(実習などにより学外に出ることも考慮する必要はある。) (弁当男子がおりました。) (食事後、本・ノートを広げる学生やサークル活動の打ち

合わせをする学生も)

・カフェテリアで使用しているテーブル、椅子の一部には、短期大学部から転用したものが混じっている。後援会ではテーブル、椅子の増設時に助成したこともあり、いずれかの時点では統一した設備とすることを考慮すべきではと考える。

・カフェテリアを整備した際に設置し、その後無用の長物と化した設備(サラタバなど)については、委託業者がその大半を上手に使っている。

・後援会として整備に助成した「学生ラウンジ(カフェテリアとコンビエとの間に設けられたスペース)に丸テーブルと椅子を整備」及び「学習ルーム(旧事務室)」の利用状況は上々であった。当日が暑かったせいもあるが、大学で整備している外にあるベンチは利用されていなかった。

・自転車を利用して学外に出ていく学生が割と多い。(買い物、食事など)

・試験が近いせいもあるのか図書館の利用状況は思った以上であった。

・その他、大学祭実行委員会の床が抜けそうなプレハブの根城や本館、新設のことも発達学棟などを見学した。

・学生から寄せられた様々な要望等について、学生委員長の木村先生から伺った。

・ATMの設置(校内コンビエ銀行では手数料を取られる。)

・コピー機、PC付属のレーザープリンターの増設(試験時期には利用頻度が高くなり、紙詰まりなどの故障が頻発するし、そもそも台数が少ない。)

・売店、図書館の利用時間の延長(売店は実施済み。)

・夜食、軽食の提供(カッパラーメン自動販売機を設置し利用状況は上々であるが、学園創設の由来からすると栄養学的にどうかという意見もある。)

・製氷機の設置(運動部、身体ケア)

・寮見が欲しい(よさこい、ダンスサークル練習用)

・個人用ロッカーが欲しい(従前からの課題の二)

・炊爨楽器に二部不足がある平成21年度整備済みであるが、一部個人所有の楽器で補うなどしている。)

・その他、木村先生からは図書館の充実、特に専門図書の整備充実が必要であるとのお話があった。

この件については、後援会として「後援会文庫」事業を予算化し、学生の要望に基づき図書整備を実施しているところであるが、なお検討の余地があるのではないかと考える。

また、具体的な内容にまで言及はなかったが、平成24年度を目標に「学生会館」を整備する予定であるとのお話があり、その際には、例えば学年進行に伴う学生数の増加に対応したカフェテリア不足分を補うための「軽食コーナー」の設置、或いは、従前からの課題である「口ツカスペース」の確保なども考慮される可能性があるとのことであった。

実施状況の概略は以上のとおりですが、今後、役員会に報告し、必要な措置などについて検討して参りたいと考えております。

以上、ご報告させていただきましたが、冒頭に申し上げたように、本会報は、後援会活動の状況などを会員の皆様方にお知らせし、ご理解とご協力を得ることが何よりも大切との認識のもとに始めたもので、是非、皆様までお読みいただき、後援会活動に対するご意見、ご要望などがあればお寄せいただきたいと思います。

終わりに、私ども役員はそれぞれ仕事をもちながら、言わばボランティアとして後援会活動に従事しておりますので、活動に行き届かないところもあるとは思いますが、会員の皆様方には事情ご買察のうえ、後援会の目的が達成できますよう、今後とも後援会活動への積極的なご参加と、なお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

理事長・学長挨拶

使命感・礼節・躍動感に満ちた

学園づくりを

学校法人鶴岡学園 理事長
北海道文教大学・北海道文教大学短期大学部 学長

鈴木 武夫



本学は社会的使命を自覚し、しっかりとした社会性を備え、国際社会と地域社会に意欲的に貢献できる人材の育成を目指しております。

簡明に表現しますと、漠然とした教養や学問研究の修得にとどまらずに、実力を高めて具体的な国家資格や国際的な検定資格を取得することを明確な目標とした学科設定をしております。

平素の学問研究にあつても、成績評価や授業の出席基準に対しても厳格な姿勢で臨むことが、学生の将来的な実力養成に大きく寄与する基本的な要件であるということを確認しております。

学生諸君も日頃から各種資格試験のための特別講座や講習会に積極的に参加し、その意識には顕著なものがあります。

また、後援会の皆さまには深いご理解をいただき、グループ学習室の設置などの局面では大きなご助力を戴いております。

私ども教職員は学生が社会に通用する本物の実力をつけることが使命であるとの立場に立ち、なお一層の努力を積み重ねる所存であります。

本学はまた東洋的美質である礼節の教育にも力点を置いております。その出発点は挨拶の励行であります。幸い外部から来られる教育関係の方々からも非常に高く評価さ

れております。

挨拶を身につけるには自意識や照れというものを一旦整理して、社会的なコミュニケーションを大切にするという、より高い次元に自分を置く姿勢を習慣化することによって達成されます。

挨拶や礼儀が精神的な側面での礼節の実現であるとするならば、学園環境の整備は物質的な側面での礼節の支柱であります。学園職員の皆さんは学生によりよく勉強してもらうための環境整備に全力を尽くしております。

学生諸君もその意義をよく理解して、キャンパス内のみならず地域周辺の環境整備にもよく協力してください。

強い使命感と礼節に支えられたキャンパスのなかで、学生たちが明るく楽しく躍動感のある学生生活を送ってくれること。そしてその過程で、高い専門能力と豊かな教養を培い、前途有為な人材として社会に雄飛してくれることが、私ども学園関係者の切なる願いであります。

そのために学生諸君の満足度を高める学園施設と設備につきまして、一層の充実を図りたいと念ずるところであります。

学園関係者の総力を結集して、使命感と礼節と躍動感に満ちた学園作りのために進んでまいります所存であります。後援会の皆様の温かいご理解とご支援を心からお願ひ申しあげる次第であります。

平成22年度 北海道文教大学後援会役員名簿

名譽会長	鈴木 武夫	会長	伊藤 晋志久	副会長	木村 昌幸	副会長	遠山 英行	監査	進藤 春美	監査	佐藤 博	理事	齊藤 澄子	理事	村上 伸子	理事	荒関 克子	理事	佐々木 義行	理事	水越 珠美	理事	安藤 裕子	理事	本田 陪照	理事	吉野 祐二	理事	木村 慶吾	理事	萩野 克己	理事	齊藤 真理子	理事	神谷 忠孝	理事	近藤 文衛	理事	上羽 緑	理事	石丸 朝生	事務局	浅見 晴江	事務局	大藤 昭	事務局	瀬能 均
------	-------	----	--------	-----	-------	-----	-------	----	-------	----	------	----	-------	----	-------	----	-------	----	--------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	--------	----	-------	----	-------	----	------	----	-------	-----	-------	-----	------	-----	------

平成二十二年三月卒業生の就職状況

今春卒業生の就職決定率は近年では、最低水準にとどまり、学生の就職にとつて、超氷河期の年でした。未決定で卒業する学生も多いため行政などが、採用に意欲のある企業に働き掛けて、正規採用に繋げることを期待し、実習生の賃金や受け入れ企業の教育訓練費助成金を支給し、6ヶ月の雇用やインターンシップ事業を実施する程でした。

平成二十二年三月卒業生の就職活動の特徴として、例年になく、年を越しても卒業間近まで、就職活動を続ける学生が目立っていました。このことは、道内はもとより全国的な傾向でした。

一月に入つて、この時期としては、異例の合同企業説明会も開催されましたが、「新たに人を雇う余裕がない」と参加を断る企業も多かったようです。

「即戦力以外は採用しない」「企業が目立ち、「厳選主義」のムードが最後まで続いていました。昨年秋季以降の内定の学生が増えることを期待していましたが、例年に比較し、特に道内求人激減で、道内希望の多い本学生にとつては、厳しい現実が続きました。企業を応募する外国語学部学生はもとより、景気の低迷が、栄養士の道を歩む健康栄養学科の学生の就職にも大きく影響していました。

行政等の経済や雇用への各種対策で、下支えされてきていましたが、景気回復や雇用安定までには繋がりにませんでした。国や道なども大学生等の就職内定率が低いことで、例年以上に企業の面接・説明会の開催などに力を入れましたが、結果として卒業生の就職率が六〇%と昨年度に比べ大幅に低下との発表、報道は記憶に新しいと思います。そのような状況が続く中で、未内定学生一人ひとりの希望地、職種および就職活動状況などを把握しながらアドバイザー教員との連携をとり、学生に対し、粘り強く、数少ないチャンスを生かす為の最善の努力を働き掛けてきました。

学生の必死の努力もあり、卒業の時点で予想以上に決定

者を増やすことができ、平成二十二年度の厳しい就職状況を乗り越え、安堵しているところで

理学療法学科 一期生健闘する

八月中旬頃から道内外の病院・施設などから求人票が就職課に届いてきました。八月で全ての実習を終えた4年生は、九月に入つて、廊下の掲示板を見て、求人ファイルで、詳細な内容を確認する為に、就職指導室を出入りする学生の姿が多く見られるようになりました。また、チームを組んで、志願先選定の参考にする為に興味・関心のある病院・施設を直接訪問した学生も多く見られました。

道内の病院・施設の人事担当者招いての学内説明会を九月、十一月の二度に亘つて開催しました。学生は、それぞれの病院・施設の内容や特色について理解を深め、希望する病院・施設を選択しました。

選考試験は、十月早々から始まり、早くに内定を得た学生も出てきました。

就職課は、面接対応、履歴書・論文の添削について学生支援を続けてきました。内定者が続き、幸先良い状況が続きましたが、その状態は十一月・十二月そして年明けまで続き、最終的に百パーセントの内定率を挙げることができました。実習期間中の学生の取り組みが評価されて、実習先の病院・施設での採用が決まった学生もいます。

就職決定の好成績を挙げることができたのは、卒業研究の教員の進路先選定の適切なアドバイス、教員と就職課の綿密な連携、選考試験に向けて一人ひとりの学生への支援が実を結ぶことができたと考えます。

そして、自己の進む分野を明確にし、希望する特定の病院や施設を選択してきたことが、就職の好成績に結びついたものと思います。

また、一期生として、学生自身が「本学の理学療法学科の基礎づくり」「後輩の為に、良い足跡を残したい」とその姿勢

を学生の言葉から感じることができました。

平成二十三年三月卒業生の就職環境

今年度も、道内での企業関係の就職活動は、二月から始まっています。関東圏では底で改善方向に行く予想されていますが、北海道に於いては各大学の内定・求人状況を聞いても昨年以上に厳しい就職環境の見通しで急激な大学生の就職状況の回復を期待することはできず、むしろ下降局面の様相が実態です。

現状は、北海道が全国でも下位の就職内定率で推移しており、合同企業説明会の早期終了などで採用継続企業を探ることが難しくなっています。

学生にとつては厳しい就職環境が続いていることを認識させ、又、未就職活動者には早期に現状を認識させる必要があります。

就職課としても後援会の就職支援を最大限に活用し、ご父母の皆さんの願いを受け止めながら学生の進路実現に向けての支援を最後まで続けていきたいと決意しているところで



平成21年度 決算

〈収入の部〉

科 目	予算額	決算額	備 考
繰 越 金	7,132,769	7,132,769	
会 費 収 入	27,555,000	28,202,500	16,500円×1,709人
雑 収 入	15,000	6,126	普通預金利息
合 計	34,702,769	35,341,395	

〈支出の部〉

科 目	予算額	決算額	備 考
1.事務費	800,000	789,689	
(1)通信費等	800,000	789,689	総会・父母懇・役員会等案内状郵送・大学名入り封筒等
2.会議費	1,220,000	1,349,341	
(1)総会	560,000	511,996	総会費用・役員交通費・紅白饅頭(入学式配布)
(2)役員会費	660,000	837,345	役員会・父母懇談会打合せ・交通費
3.事業費	28,231,645	24,968,311	
(1)学生活動助成	11,696,425	11,693,555	
(a)学生会助成	900,000	900,000	校友会(大学)・学生会(短大)助成
(b)文化・体育助成	7,000,000	6,997,130	学生活動に関する助成
(c)各種行事助成費	900,000	900,000	大学祭・体育大会等行事助成
(d)学生福利厚生施設設備費	1,896,425	1,896,425	予備費から補填
小 計	2,896,425	2,896,425	
(2)「後援会文庫」整備事業費	2,000,000	2,000,000	書籍の購入
(3)父母懇談会	2,000,000	1,508,485	本学キャンパス・地方2会場(函館・北見)
(4)卒業記念助成	2,500,000	2,498,254	卒業記念品・紅白饅頭(卒業式配布)
(5)「卒業祝賀会」費	3,500,000	3,330,446	卒業祝賀会費用
(6)就職活動助成	3,500,000	3,052,381	就職講座等
(7)短期大学部音楽設備整備事業費	185,220	176,400	エレピアン用ヘッドフォン
(8)修学資金貸付金特別会計繰出金	2,000,000	0	
(9)広報費	650,000	648,790	会報(年2回)・広報活動
(10)慶弔費	200,000	60,000	
4.学生指導助成	1,800,000	1,131,416	アドバイザー制度助成(学生指導助成事業)
5.後援会活動調整基金	1,000,000	1,000,000	
6.予備費	△1,896,425		学生福利厚生費に補填
小 計	3,547,549		
小 計	1,651,124	0	
支出合計	34,702,769	29,238,757	

平成22年度 予算

〈収入の部〉

科 目	予算額	備 考
繰 越 金	6,102,638	
会 費 収 入	31,350,000	16,500円×1,900人
雑 収 入	15,000	普通預金利息
合 計	37,467,638	

〈支出の部〉

科 目	予算額	備 考
1.事務費	800,000	
(1)通信費等	800,000	総会・父母懇・役員会等案内状郵送・大学名入り封筒等
2.会議費	1,260,000	
(1)総会	600,000	総会費用・役員交通費・紅白饅頭(入学式配布)
(2)役員会費	660,000	役員会・父母懇談会打合せ・交通費
3.事業費	28,400,000	
(1)学生活動助成	9,900,000	
(a)学生会助成	1,000,000	校友会(大学)・学生会(短大)助成
(b)文化・体育助成	8,000,000	学生活動に関する助成
(c)各種行事助成費	900,000	大学祭・体育大会等行事助成
(d)学生福利厚生施設設備費	0	廃止事業
(2)「後援会文庫」整備事業費	2,000,000	書籍の購入
(3)父母懇談会	2,000,000	本学キャンパス・地方2会場(函館・北見)
(4)卒業記念助成	3,000,000	卒業記念品・紅白饅頭(卒業式配布)
(5)「卒業祝賀会」費	4,000,000	卒業祝賀会費用
(6)就職活動助成	4,500,000	就職講座等
(7)短期大学部音楽設備整備事業費	0	廃止事業
(8)修学資金貸付金特別会計繰出金	2,000,000	
(9)広報費	800,000	会報(年2回)・広報活動
(10)慶弔費	200,000	
4.学生指導助成	4,000,000	アドバイザー制度助成(学生指導助成事業)
5.後援会活動調整基金	1,000,000	
6.予備費	2,007,638	
支出合計	37,467,638	

収入・現決算額 35,341,395
 支出・現決算額 29,238,757
 決算差異額 6,102,638 (繰越額)

平成22年度
後援会
事業計画

平成22年4月3日	定期総会	平成22年10月	中間監査
平成22年4月16日	第1回ワーキンググループ	平成22年10月	第2回ワーキンググループ
平成22年5月28日	第1回役員会	平成22年11月	第2回役員会
平成22年7月17日	父母懇談会(札幌キャンパス)の助成	平成23年3月	第3回ワーキンググループ
平成22年8月28日	父母懇談会(北見会場)の助成	平成23年3月12日	平成22年度学位記授与式記念品助成
平成22年9月5日	父母懇談会(函館会場)の助成	平成23年3月12日	平成22年度卒業祝賀会及び同窓会入会式助成
平成22年10月10日	父母懇談会(恵庭キャンパス)の助成	平成23年3月	監 査
平成22年10月9日・10日	大学祭(恵庭キャンパス)の助成	平成23年3月	第3回役員会
平成22年10月30日	大学祭(札幌キャンパス)の助成		



※ゲストライブは10日(日)に入場整理券を配布予定

時間
9日(土)10時～21時
10日(日)10時～21時30分

場所
北海道文教大学恵庭キャンパス
恵庭市黄金中央5丁目196番地の1
0123-33-0001

日程
10月8・9・10日(金・土・日)
※一般公開は9・10日です。

第12回北海道文教大学 榮凜祭

榮凜祭は今年で12回を数える大きなお祭りとなっており、大学祭実行委員会が日夜、企画・立案を考へております。昨年は花火を大学祭初日に打ち上げ、開幕。来場者は1000人を越える大学祭となり、幕を閉じました。今年も、模擬店の出店数も過去最大となり、またステージ企画も昨年とは一味ちがったもの考へており、昨年よりまたにぎわった大学祭になることは間違いのないことでしょう。更に今年のゲストは、クイズヘキサゴンでお馴染みの「南明奈」さんが来ていただけます。お時間があれば、ぜひ足を運んでいただけたらうれしいです。大学祭実行委員会一同、心よりお待ちしております。